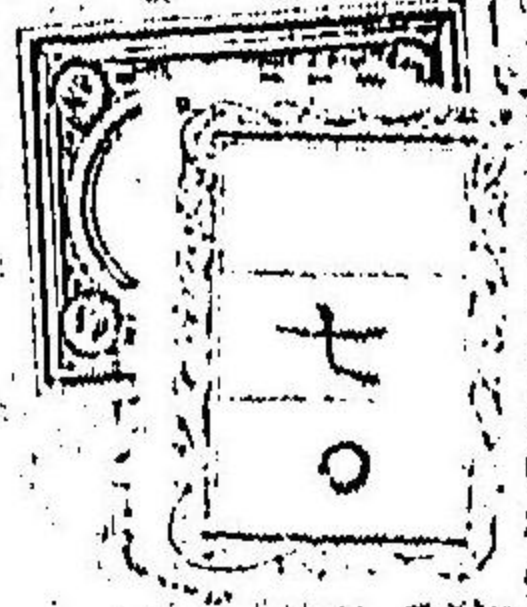


鯨獵論說



完



曾テ日本ニ於テ編成セル著書ノ如キハ唯ニ鯨魚圖画ノ  
ミヲ表示セルモノニシテ該鯨魚ノ種類區分等ニ付テハ  
予輩未タ確實ナル説ヲ得ス中ニ就テ其解剖等ニ至テハ  
未タ一個ノ論説ヲモ得サルナリ然リト虽モ其解剖ノ如  
キハ日本鯨魚ト他海鯨魚トノ比較ヲ定ムルニ最モ要ス  
ル要ナリ故ニ同僚ニヤンセン氏ヨリノ請求ニ因リ日本  
政府ヨリ送ラレタル鯨骨ノ部分ハ日本鯨魚ノ種類ヲ分  
定スルニ最モ著シキ裨益ヲ与フルモノナリ  
千八百三十三年トミンク及同氏輔助人スクルジエールノ  
西氏著述ノフターナジヤボニカ日本鯨魚ト題セル書ハ有名  
ナル和蘭人レノボルト氏カ日本ニ於テ集成セル書ニ依  
テ編成セルモノニシテ日本鯨魚家ノ發見セル該國鯨魚  
ノ種類ヲ説明セルモノナリ

第一 前ニ掲クル西学士ノ説ニ日本海鯨魚中第一ノ

種屬ト定ムルモノハバレーヌプロマンジ純粹ナル  
バレーヌノ名

ト一概ノ形状ヲ有シ其頭肥大ニシテ長鬚アリ背部ニ鱗

ノ如キモノヲ具セス日本名之ヲセビクジラト云グレイ

ー氏ハ之ヲコユバルナリーニボルジノ種屬ト名ケ

リ蓋シ此種名ハ該魚ヲ發見セルレノボルト氏ノ名ニ依

テ附与セルモノナリ又ラセペー氏ハ之ヲ名ケテバルナ

リーシヤポニカ日本鯨魚ト稱セリ此鯨種ハアレウー

チヤン島ノ近海ニ多ク産出シ同國ニ於テハ之ヲレボル

ナリーアレウーチヤント稱スト云リ

歐名セタセーアブアノント稱スル一種アリ殆ント前

ニ舉ル所ノ鯨魚ト同種屬ナリ該兩種ノ骨格ヲ點檢シテ

其區別ヲ定ムルニ前ニ掲示セル第一種屬ノ鯨骨ヲ要ス

ル所ナリ然レモ歐羅巴ニ於テハ未タ其鯨骨ノ一部分ヲ  
得ス而シテ今日本ヨリ送達サレタル鯨骨ニ因テ始テ其  
區別ヲ判然タラシムルヲ得タリ因テ第一種屬鯨魚ノ  
性質ヲ次ニ登記ス

但シ今回日本國ヨリ送ラレタル鯨骨ハ腦蓋ノ三ニシ  
テ他ノ部分ハ不日巴里ニ到着ス可シ

腦蓋全部長サ四メートル三十内部頭骨長サ四メートル  
十鼻部ノ截痕ヨリ齒骨ノ極先マテノ距離三メートル二  
拾五額骨外部ノ幅負一メートル八十及該骨眼穴ノ上部  
孤線長サ四十五デシメートル嘴ノ中央ノ幅七十八デ  
シメートル鬚色薄黒ニシテ長サ六十デシメートル余ア

該<sup>腦</sup>骨ニ因テ考フレハ第一種屬ノ鯨魚ハバルナーニス

チセケースト稱スル種屬ト全ク相反シ我博物館中ニ貯

藏セルバルナーニョーストラリー南方鯨魚ノ義及バルナー

アンチポリエームト稱スル南海鯨魚ト其種類殆ント一服

ナリ又バルナーニビスカイエニシト号スルハスクー名國

ノ鯨魚モ之ト大ニ類似セリ蓋シ最後ノ一種ハ往時カス

コニギニ名國ノ海湾ニ於テ多ク之レヲ獵シ得タリ然レモ

現今ニ至テハ此點ヨリ大イニ掛隔ニタル海中ニ住スト

云ヘリ

今ヨリニ三年以前サンセバスチヤン名地ノ近傍ニ於バス

クーノ若サナル鯨魚ヲ得タリダノワー名國ノ解剖学者エ

スクリッシユ氏之ヲ大ニ送リ解剖ノ用ニ供セリ此鯨

骨ハ我博物館内ニ備フル集合物中單純ナル一種類ニシ

テ之レヲエパナーグ名地ノ博物館内ニ貯藏セリ尔後之レヲ

エスクリツシエ及レーナルトノ両氏解剖シテ第一種属ノ鯨  
種中ニ之ヲ位列セリ

テミンク及スレジエールノ両氏ハヨクシラトセビクジ  
ラトハ同一ノ種属ニシテ其性質ブレールバレー又乃今真  
正鯨魚トハ全ク相及スルモノトス然レモ未タ其的證ヲ  
得サレハ予輩此説ヲ憑信スルヲ得ザルナリ

第二 他ノ日本鯨魚ハ前章ニ掲クル学士等ノ説ニ因  
リ一般ニラセペード氏ガバレノフテールト名ケシ種類  
ニ属セル者トス其形状ブレールバレースト異ナル者ハ  
頭ノ精圓ナルト鬚ノ短ナルトニ而シテ該種ハ背部ニ  
肥脂ナル一種ノ鱧ヲ有セリ故ニ博物家之レニハレノフ  
テール鯨ノ義ノ名称ヲ授与セリ然レモ現今発見セシ所ノ  
ハレノフテールト昔時ノバレノフテールト其性質大ニ異

ナル處アリ故ニ博物家ヲシテ同種属中ヨリ尚許多ノ種  
類ヲ再分セシムルニ至レリ乃今前ニ掲クルハレノフテ  
ールトノ種属中ヨリ區別シタル四種ヲ左ニ掲載ス

バレノフテールノ種属中ノ一種ニブレールカール又ハ  
ヒザリエースト名クル者アリ此鯨魚ハ屢々我国海岸ヲ  
往來セリ其形状ハ背部ニ甚大ナル鱧ヲ有シ胎部甚ク短  
ナリ

バレノフテールプロマンジー或ハバルナーザロストラター  
ト名クル一種アリ之レ前ニ掲クル者ト殆ト同種類ニシ  
テ其異ナル所ハ僅カニ背節ノ數少キノニ尚其他微少ノ  
差異無キニ非スト虫モ之ヲ以テ分類ノ的證ト為スニ足  
サレハ茲ニ畧シ又此種類ハ前ノ一種ヨリ其形稍小ニシ  
テ我国海岸ニ於テ之ヲ見ルヲ甚ク稀ナリ之ニ反シテハ

ルカリエーヌスキユリエーヌ乃々尋常ノロルカールハ毎歳歐州  
海岸ニ於テ獵スルヲ得ル者ト云フアリストツト氏ハ該  
鯨種ニミスチセートノ種名ヲ与エタリ

其他孤形ノ背鰭ヲ有スル一種アリアトラン海中ニ産生  
セルモノニシテコバルド氏ヲ以テ該種発見ノ始創トス  
故ニ同氏ノ名ニ基キ之ヲシバルジエーヌノ種屬ト稱ス其  
形甚タ著大ナリ

第四ノ種類ハ胸部甚タ廣闊ニシテメカプテールドグレ  
イー或ハキポバレーヌデスクリツシエト名クル種屬中ノ  
一種ナリ其他尚該種屬中ニ措置スル者ハ大平海北部ノ  
ケポルカー及ヒ南海ノ鯨種ナリ蓋シ此南海ノ鯨魚ハギ  
ユビエー氏ノ発見ニ係ル者ニシテ同氏該種ノ全骨ヲ試  
檢シテ之ニロルカールシエカップノ名ヲ授与セリ

日本海ハ総テバレノフテール中ノ諸種ヲ畜育セリト雖モ  
實驗ヲ經テ其種類ヲ分定セルモノハ独リメガプテール  
ノ一種ニ過キスステミンク及シレジエールノ兩氏ハ日  
本海鯨中バレノフテールニ屬スルコト鯨ナカス鯨ハソ  
鯨ノ三種ヲ合併シテバレノプテラマントタルクチカー南方鯨魚  
ノ義ノ名ヲ付セリ然レ氏之ヲケポルカート同種類中ニ排  
置スルハ甚タ其當ヲ得ザルモノナリ

前三種中サトクヰラハ胸骨長クシテ黒色ヲ帯ヒ其體形  
ヲトマンファフリユー氏ガハレナーポツプト名ケシメカ  
プテール種屬中ノ一種ニシテ太平洋中ニ生活セル鯨魚  
ト畧類屬セルモノナリ

別林近海ニ産生セルケポルカーハバラス氏ノ説ニ因リ  
前ニ掲クル所ノサトクヰラト全ク同種類タルコトヲ信

用セリ然レ氏全ク同一ナル性質ヲ有スルヤ或ハ外貌ノ  
 類似ノミヲ有スルヤ之レ其剖部試験ニ因ラサレハ之ヲ  
 明解スルヲ得ス而シテ予輩未ク其骸骨ヲ得サレハ茲ニ  
 論定スルヲ得スト魚氏外部ノ形容ニ因テ考フレハサト  
 クシラヲ以テメガプテールノ種属中ニ置クモ大ニ當レ  
 リトス  
 テミンク及スレジエールノ両氏カバレノプテールアంత  
 ルクチッタート名ケシ三種ノ鯨魚ハ其種類殆ト倫類シテ  
 之ヲ區分ナシ難シ故ニグレュー氏モ亦具サニ之ヲ令類  
 セス唯ニ其從前ノ種名ヲ廢シ之ニ換ルニメガプテラリ  
 シラノ名ヲ以テセリ如何トナレバ此クジラナル語ハ不  
 定ノ意味ヲ含有シ鯨魚ヲ總名ニシテ區別シタル種類ヲ  
 指示スルノ語ニ非サレハナリ

令同僚シヤンセン氏ヨリ日本政府ヨリ請求ニヨリ得タ  
 ル所ノ鯨魚腦蓋ハ前ニ掲載セル者ノ三種合併シテ  
 メカフテールノ種属中ニ屬セシメタル鯨種ノ第二ノ種  
 類乃チナガス鯨ニシテ始テ其性質ヲ瞭知スルノ裨益ヲ  
 得タリ此鯨魚ハケポルカックノ種類トハ全ク相懸隔シ  
 タル性質ヲ有シロザリニス乃チロルカールナル子  
 ルノ如クシバルデンノ種類ニ屬セシムルモ可ナリト雖  
 モ該兩種ノ間ニ微少ノ差異無シトスルヲ得ス而シテ此  
 腦蓋ヲ以テケポルカーノ腦蓋ニ比較スレハ其形平坦且  
 大ニシテ鼻竅甚ク廣ク顛部ノ骨格及顛顛穴ノ形等モ亦  
 自ラ異ナルアリ之ヲ以テ兩種ノ異族ナル徵候ト為テ得  
 ベシ  
 前ニ掲クルセビクシラノ腦蓋ハリエート  
 名地ノ博物館ニ

貯藏セルジマバー<sup>名地</sup>ヨリ舶来セル鯨魚ノ腦蓋ト同一ノ  
形ヲ具セリフロ<sup>名地</sup>氏ハシマバー鯨魚ノ腦蓋ヲ檢閲  
シテ之ヲ未曾有ノ鯨種トシテシラ<sup>名地</sup>ル<sup>名地</sup>ジエース又スレ<sup>名地</sup>ジ  
エリ<sup>名地</sup>ノ名ヲ付与セリボンブ子ドル氏ハ之ニバ<sup>名地</sup>レノプ  
テラス<sup>名地</sup>レ<sup>名地</sup>エールノ種名ヲ付シ鯨骨圖解中ニ之<sup>名地</sup>レヲ描  
出セリ

ジマバー海岸ヨリ渡来セル<sup>名地</sup>腦蓋ト日本ヨリ逸送セラレ  
タル<sup>名地</sup>腦蓋トハ全ク同種類ニ属スル者トス仮令全ク同種  
類ニ非サルモ或ハ接近セル血續ニシテ僅カニ一二點ノ  
微異ニ過サル可シ此兩種ハ共ニ長キ面部ヲ有セリ其他  
セト<sup>名地</sup>リ<sup>名地</sup>エールムラケ<sup>名地</sup>ノ名ヲ付与シテ<sup>名地</sup>図画<sup>名地</sup>中ニ掲クル<sup>名地</sup>ク  
リ<sup>名地</sup>メ<sup>名地</sup>ニ於テ掘出セル鯨魚枯骸モ前二種ト一般ノ形ヲ  
具セリ之<sup>名地</sup>レニ因テ考<sup>名地</sup>フ<sup>名地</sup>レハ此枯骸ハ往時印度海ト交通

セシ<sup>名地</sup>支流<sup>名地</sup>中ニ埋没セル者ト考定スルモ大ニ理由アリト  
云可シ

日本鯨魚家ノ<sup>名地</sup>ソク<sup>名地</sup>シラト名クル者ハバ<sup>名地</sup>レノプテ<sup>名地</sup>ール  
ノ第三ノ種類中ニ排置ス此種類ハ我歐羅巴ニモ生活ス  
ル者ト<sup>名地</sup>金<sup>名地</sup>モ未<sup>名地</sup>タ其骨ヲ得ガ<sup>名地</sup>レハ之ヲ解剖シテ其種類ヲ  
明説スルヲ得サ<sup>名地</sup>レハ今茲ニ畧ス然<sup>名地</sup>レ氏該種ノ全骨或ハ  
其腦蓋ヲ欲スル所ノ博物家ノ為メニ唯其外貌ノ形状ヲ  
記ス<sup>名地</sup>リ<sup>名地</sup>ミンク<sup>名地</sup>及<sup>名地</sup>スク<sup>名地</sup>ル<sup>名地</sup>ジエール<sup>名地</sup>氏ノ説ニ此鯨魚ハ手部  
及<sup>名地</sup>背部ニ白色ノ斑點ヲ帶フト云ヘリ

第三ノ<sup>名地</sup>ワ<sup>名地</sup>シク<sup>名地</sup>シラ<sup>名地</sup>及<sup>名地</sup>ガツ<sup>名地</sup>ク<sup>名地</sup>シラノ二種ハ<sup>名地</sup>テ<sup>名地</sup>ミンク<sup>名地</sup>及<sup>名地</sup>  
スク<sup>名地</sup>ル<sup>名地</sup>ジエール<sup>名地</sup>氏<sup>名地</sup>兩氏ノ考定ニ依リバ<sup>名地</sup>レノプテ<sup>名地</sup>ールノ曰  
種類中ニ属セル者トス蓋<sup>名地</sup>シ此説ハ日本ニ於テ編集セル  
鯨魚書ニ依テ假定セル者ニシテ未<sup>名地</sup>タ分類ノ確證ヲ得ガ



ルナリ

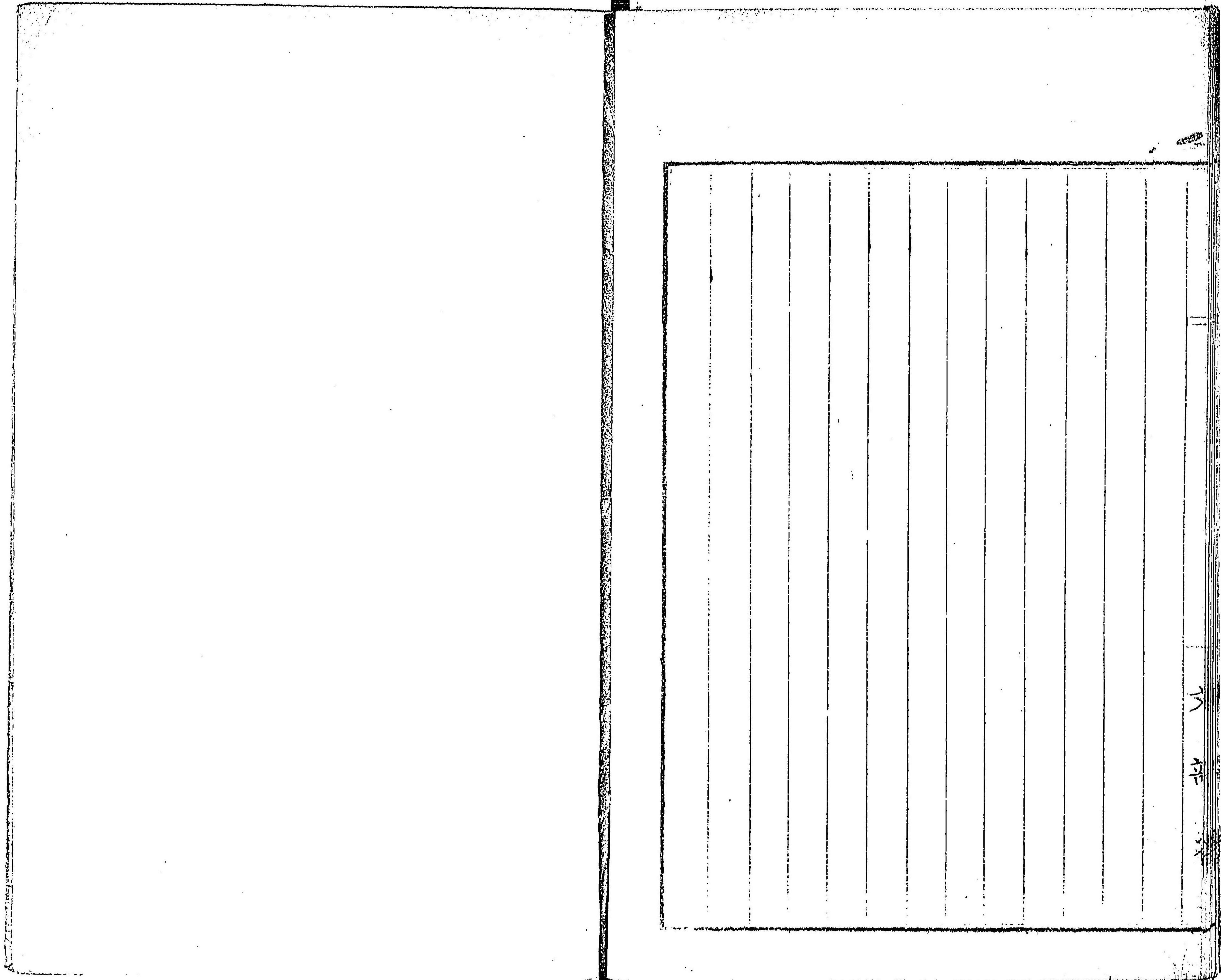
千七百六十年三月六日紀伊ノ国ノ海岸ニ於テイワシク  
 シテノ最モ若少ナルヲ得タリ長サ殆ント七メートル六  
 十センチメートル背部黒色ヲ帯ヒ腹部白ク両脇部ニ白  
 色ノ斑點アリ其他尚バレノフテイルノ他ノ種屬ト異ナ  
 ル所ハ胸部ノ甚タ短ナルト頭顱ノ細ナルトナリ日本  
 国鯨魚ノ發見者ハ既ニ其図画ヲ製作セリト聞クト虽モ  
 予輩未タ之ヲ得ル能ス而シテ同氏ノ説ニ該魚ハチルク  
 一ノ鯨種ノ為メニ侵襲セラレ或ハ懸隔シタル他點ニ漂泊  
 スルコトアリト云ヘリ

テミンク及スクルジュールノ両氏ハイワシクセラヤ以テ  
 バルノプテラーアルクナカ種名ト呼称セリ然レモ  
 其性質ヲ熟知シテ前稱呼ヲ与エシニハ非ガルナリナレ

イー氏ハ此種屬ニ付テ別ニ詳細ナル説ヲ吐露セス當ニ  
 ビサリニスイワシノ種名ヲ付スルヲ以テ限レリトセリ  
 亦カツケト称スル一種ノ鯨アリ蓋シ其形状鯨魚ニ類ス  
 ルヲ以テ斯ク名ク其長サ大約三メートルニ下ラス此一  
 種ハ其臍時ヲ定メス軍間四時ニ得ル者トス該一種ハ未  
 タ其性質ニ付テ確實ナル説ヲ得スト虽モ前章ニ掲載セ  
 ル各種ト異ナルコトハ外部形貌ニ因テ判然タリ  
 ダレイー氏ハ前一種ヲハレノプテラシンボイト名ケ  
 テ其種類ヲ論述セリ然レモ此説ハスワイエー氏カ大湾  
 鳶ニ於テ編選セル図画ニ依テ論述セルモノニシテ確信  
 スルニ足ラス前ニ掲載セル諸種類中ニ或ハカツケ鯨ト  
 同種屬ノモノ有ルマ未タ之ヲ考定スルヲ得ガハナリ  
 前章ニ掲載スル諸種ハ日本及支那ニ於テ編選セル鯨魚

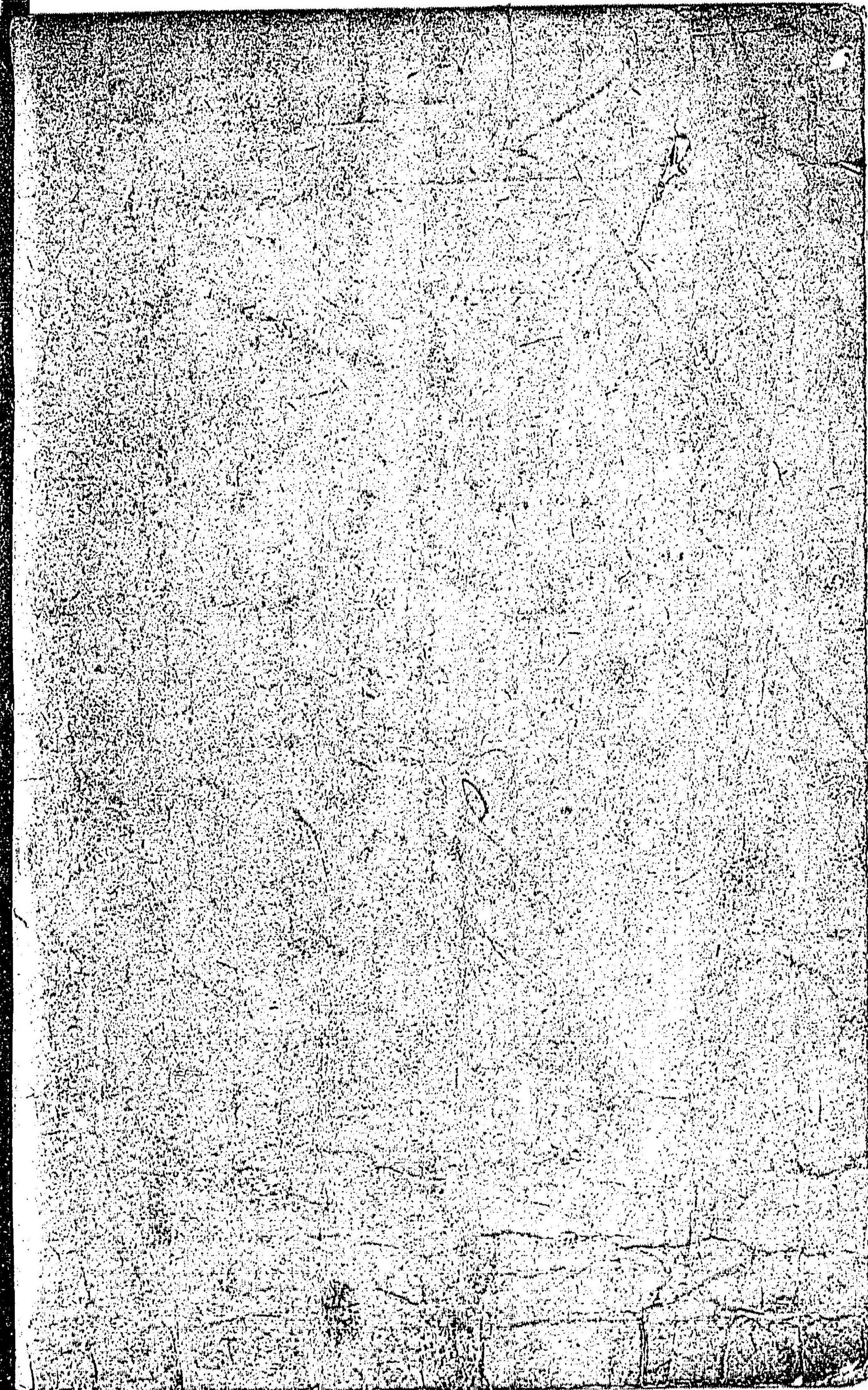
書ニ依テラセペート氏カ陳述セル説トアレシトヤン  
寫ノ住民ヨリ借用セル回画ヲ點檢シテシヤミソ一氏カ  
考定セシ説ニ基イテ其種類ヲ區別スルモノナリ  
前章ニ掲載セル論旨ヲ以テ日本近海ニ産生セル鯨魚ノ  
種類ヲ悉ク分定スルニ尚夥多ノ考究ヲ要スルヲ判然ニ  
シテ敢テ博物家ノ辨論ヲ要セサルナリ然リト虽モ鯨魚  
ノ生スル諸點ニ臘者日ニ増殖シテ鯨魚ノ減スルヲ甚シ  
ク現今ニ至リテハ之ヲ得ルヲ甚ク難キニ至レリ之ニ  
因テ之ヲ考フハ今日此業ニ從事シテ潤益ヲ得ル點ト  
虽モ他日大平海ノ北部ノ如ク該魚ノ減スル期シテ知ル  
可キナリ

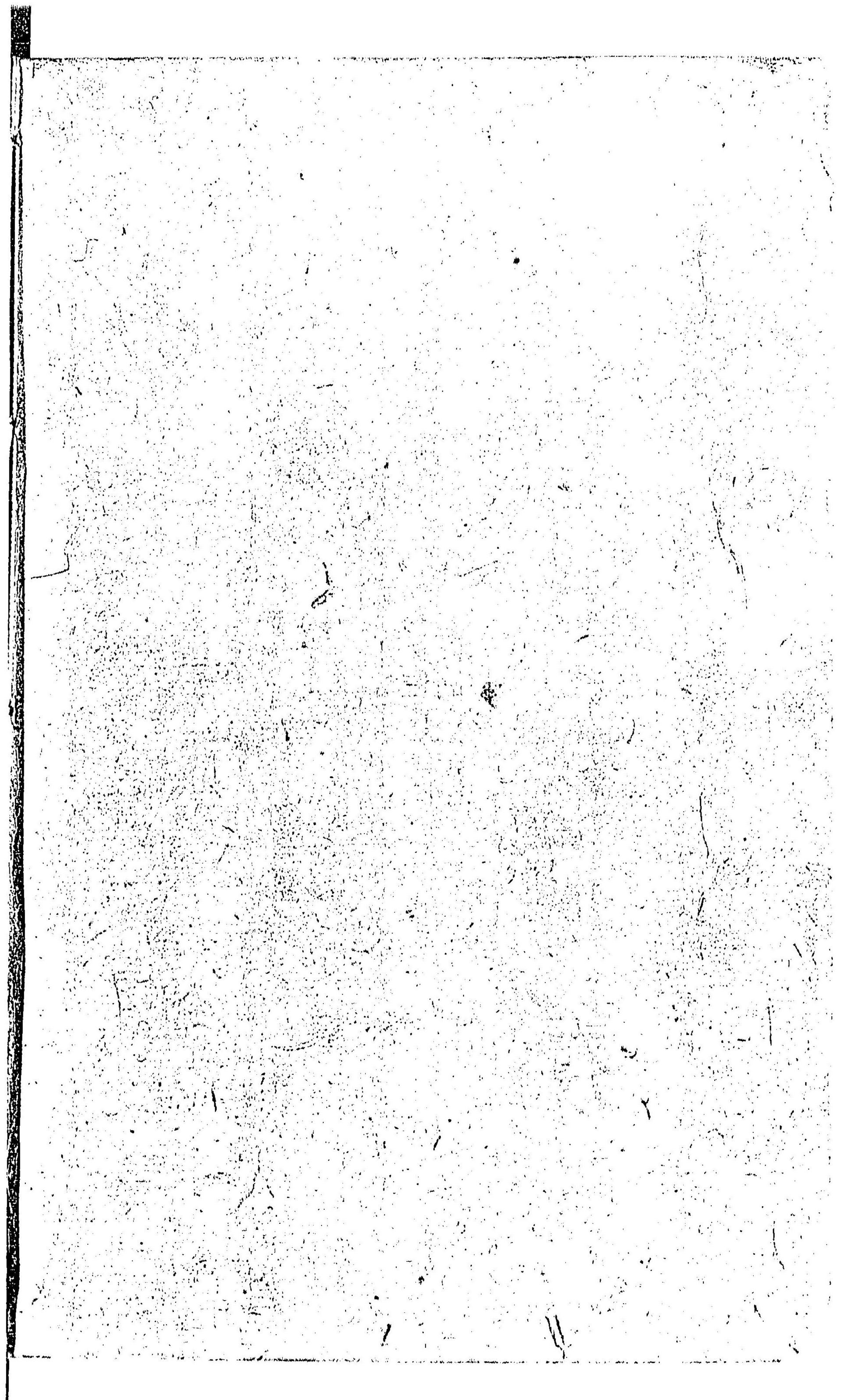
我大母校ヨリ日本大臣工前件ノ謝辭ヲ呈進セラレハニ  
際シ前章ニ掲載セル如キ學術及工業ニ関スル一點ニ尚  
一層日本政府ノ注意ヲ煩ハサントナ同校ヨリ日本大臣  
工懇求セラレントナ之レ余輩カ大母校ニ向テ請求スル  
所ナリ



Handwritten markings in the right margin of the table area, possibly including the characters '5', '11', and '4'.

9
70





鯨獵論說

9  
70

310276-000-0

9-70

鯨獵論說